

# 平成29年度 学校経営の理念・方針について

平成29年4月1日 糠沢小学校長

## 「やっぱり！糠沢小でよかったなあ！」

—糠沢っ子の「学び力の育み」「心の力の育み」「体の力の育み」を保障する学校づくり—

### I はじめに

#### ＜本宮市長様の「送別の言葉」より＞

平成28年度本宮市小中学校教職員離任式(3月28日)にて、本宮市長様は「送別の言葉」の中で、「・・・個々の“よさ”をどのように伸ばすかが、“復興”であり、人を育てることが“復興”である。・・・伸ばすために、何ができるのか見つけ、一人一人を育むことへつなげてほしい・・・」と述べられた。私は、本宮市長様の言葉を伺って、改めて「教育とは？」と、再考しました。教育の目的は、皆さんもご承知のように「第1条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と、何を目指して教育を行い、どのような人間を育てることを根本的な目的とすべきかという「教育の目的」を引き続き規定しています。

さらに、教育の目標は、「第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、・・・目標を達成するよう行われるものとする。」と規定しています。(条文は省略)

これらの条文から、教育は「何を目指して教育し、どのような人間を育てる」ためなのか明確に規定した「場と機会」であると考えます。この世に生まれ、「生き抜いていくために何が必要なのか？何を学ぶのか？どのように学んでいくのか？・・・」など、真の実力を得ることです。「様々な課題」を課題として放置せず、その解決のプロセスで、知識、企画、道徳性、協働性、忍耐力、継続、創造性、探究心、連帯・・・など「縦の力・態度」を発揮し、「学び」「心」「体」「連携」など「横のつながり」により、「様々な課題」でも、解決を見出すことができると考えます。

### II 経営理念

#### 「啐啄の機」と「つながり愛」

まず以て、「幼稚園教育」との接続、中学校への接続を見通した「学校教育の推進」が重要となります。すなわち、「早すぎず遅すぎず、まさに、このタイミング」が、それぞれの教育時期に必要なことです。このタイミングとは、幼稚園教育は4歳・5歳児を対象としました教育、小学校教育は6歳～12歳を対象としました教育、そして中学校教育へつながります。しかし、幼稚園教育の前に、乳幼児教育の段階があります。0歳～3・4歳では、保育所または家庭保育にて育てられます。平成30年度より新しい幼稚園教育要領にて、幼児教育がスタートします。また、平成32年度からは、小学校で新しい学習指導要領にて、小学校教育が進められます。そこで、学校教育は、学校だけで行うのではなく、「地域・学校・家庭」の器と、その中身の「住民・教員・親」の関わりや連携がより重要となり、新しい学習指導要領の実施へ向けた準備(課題解決)も必要となります。このような準備や課題を解決するために、「教員・親・住民」である中身の「連携・接続」を目指した実践が大切です。糠沢小学校でも今までに、「連携」による教育活動を進めてきました。

これらを踏まえて、次期学習指導要領や本宮市教育委員会の重点事項等に関連付けながら、平成29年度は「中身の連携・接続」を重視した学校経営を進めていきます。そのためにも、小学校教育は勿論ですが、幼稚園教育との「接続」を教育課程に位置付け、「啐啄の機」という考え方で進めていきます。

そのために、校長として着任時、まず行うことは「地域・学校の歴史」を知ることです。(※どの学校でも同じ。)子どもたちが住んでいる「地域」、学んでいる「学校」に対する「思い・願い」はどの地域でも同じであると考えます。特に、校舎の歴史的変遷は、今までに関わられた地域住民の皆様方、保護者の皆様方の思いや願いが込められています。144年目の平成29年度は、新たな糠沢小学校の歴史が始まります。平成28年度の成果と課題(解決策)を受け、次の点を重視した学校づくりを進めて参りたいと考えました。

- 子どもの「夢」を実現へつなぐ学校
- 子どもの「よさ」を伸ばす学校
- 家庭・地域と「つながる学校」＜「教員・親・住民」の中身の連携＞

これらの基盤となる「ふるさと愛(つながり愛)」(糠沢のさと)を育むために、糠沢地域文化の継承、幼稚園・保育所と小学校とのつながり、白沢地区内外の小中学校とのつながり、糠沢地域(さと)の再発見や人々

との交流など、「つながり」を重視した学校経営を進めていきたと考えます。

【平成28年度の実践・成果を引き継いで！⇒平成29年度も！】

＜学校全体での実践事項＞

※学校経営ビジョンより

○学び合う場と時間の確保	○自己存在感発揮の場と推進	○自己目標の設定・練習奨励
○学び合いの授業	○異学年交流（清掃・特活）	○運動の楽しさと味わわせる工夫
○言語活動の重視と授業	○相互のよさ，自他の生命尊重	○病気・むし歯予防と健康意識
○定着確認シート有効活用	○ <u>道徳教育・特活・総合・キャリア</u>	○食育・放射線への指導
○朝読と図書ボランティア連携	○地域人材の活用	○ <u>早寝・早起き・バランスと朝食</u>
○授業と宿題（自主学習）の接続	○活動のねらいと意欲の喚起	○ <u>命の尊重（危機回避能力の育成）</u>
	○実施後の自己評価	○ <u>集団登校・下校の指導・工夫</u>
		○保護者・地域・関係機関との安全指導

＜学校を支える基盤＞

【家庭・関係機関】	【教職員】	【地域・学区】
○学校の情報発信・家庭の願い把握	○教師の同僚性構築・指導力向上	○ <u>地域の教育力（子どもの活動へ）</u>
○ <u>保護者・関係機関の協力受け入れ</u>	○教育専門職として使命感・重責 研修の充実	・地域人材の活用
○安全・安心な生活の実現	○ <u>児童の向上心（褒め・認めて）</u>	・地域行事への参加・協力
	○学級づくり（教師・子ども・保 護者の相互支え合い）	○ <u>安全の確保（地域との協力）</u>
	○積極的な生徒指導（教育相談充実）	・防犯教室
	○ <u>不祥事根絶（全力で）</u>	・見守り隊との連携
		○同一中学校区の教育連携
		・幼保小中連携の授業研究
		・情報交換

＜糠沢小と糠沢幼稚園の連携＞—「言葉の力」と「心の教育」—

本校が目指す「学校力」の向上を実現するために、平成29年度学校経営ビジョンを基に、糠沢幼稚園との連携を密にした学校づくりを進めていきたいと考えます。将来、子どもたちが社会を生き抜いていく力を育むためには、「人間力」を育成し、「生きる力」へつなげることです。「人間力」を育成するには、「論理的思考力・創造的探究心・コミュニケーション力・内省的思考力・共生的な態度・自己肯定感」を学校教育活動や地域の中で育てることです。これらを育むために「言葉の力」が関わってきます。「言葉」や「心」は、子どもたちの「生きる力」を育むために、重要であると考えます。そこで、「言葉の力」と「豊かな心」を育成するために糠沢小学校と糠沢幼稚園が手をつなぎ、「糠沢のさと」に住んでいる子どもたちを共に育てていくことを再確認したいと考えます。さらに、地域の皆様方との双方向性のある「つながり合う教育」も進めていきたいと考えます。

糠沢小学校では、これらの活動を続けてきた結果、「学び・心・体・保護者・住民・文化・環境」など、「つながり」により大きな成果を上げてきたものと考えます。改めて「保護者・住民とのつながりの重要性」が認識され、「学力・体力・心力」は、これらの「かかわり」を深めることで向上するものと考えます。

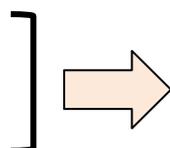
以上のことから、平成29年度「親(保護者)・住民・教員」の「つながり」を基に、相互の「協力」で子どもたちの「学びの力」や「心の力」、「体の力」を育みたいと考えます。「心の力」を基盤として、「学びの力」、「体の力」を育む学校づくりを目指します。それらの力が子どもたちの「人間力」を高めることへつながるものと考えます。**※すべての学校教育の共通ではないかと考えます。**

＜重点目標から＞

学びの力＝自ら考え、学び取る学習力

心の力＝自らに厳しく、相手に優しい人間関係力

体の力＝自ら健康な生活をつくる力



人間力の育成と向上

※人間力（論理的思考力・創造的探究心・コミュニケーション力・内省的思考力・共生的な態度・自己肯定感）

※学校力（子どもに対して基礎・基本の学力を身に付けさせ、人間的な成長を促す教育力）